

OVERLAP

動物応用科学科 4年 藤本彩乃

昨日の夜、家に帰ってコートを掛けていたら、ハンガーが折れた。引っ越して来た頃、古淵のジャスコで買った20本・数百円の茶色いプラスチック製の何の変哲もないハンガー。考えてみたら3年7ヶ月も使い続けていた。ありがとう。

でもね、折れた瞬間に頭を過った言葉。

「しまった、うまく切れなかった。」

最近、これまでのだらけた生活のせいで卒業研究の分析に追われている私。もう12月だぞ。何やってんだ。私の卒業研究のテーマは、オオカミとキツネの食べているものを比べること。シャーレに描いてある格子にオオカミ達が食べていたどんなものがどれだけ重なっているかをみる「ポイント枠法」が、最初の分析。

左手にカウンター、右手にえんぴつとシャーレの縁を持って、顕微鏡のぞき込む。バッタ脚・かちっ、毛4・かち、かち、かち、かちっ、バッタ翅・かちっ……………。

こんなことを1日中続けて、家に帰って、布団にもぐって、目を閉じる。すると、不思議なことに、左耳の奥からカウンターの音が響き始める。かちっ、かちっ……。

「あ、違う、違う。今のは葉っぱじゃなくて茎だよ。」

右手が慌てて、今書いた正の字を消すための消しゴムを探る。

目の前には、シャーレに描かれた格

子とオオカミ達の食べたものが広がっている。

おかしいなあ、ヒツジを数えていたはずなのに。

でも、こんなことでうなされて、睡眠不足なんてことにならないのが私の強いところ。毎晩ぐっすり眠って、毎日元気にポイント枠法の分析を進めて、目標数は分析が終わった。

それから、2番目の分析。ポイント枠法では「毛」としか判別出来なかったものを、何の動物の毛だったのかを調べていく。これはまだ分析にまで進めていない。何やってんだ。

今は、どの動物の毛にどんな特徴があるのかを見つけていく作業中。昨日は、毛を剃刀で輪切りにして、どんな形をしているのかを見ていた。

それで、冒頭の言葉。

折れたハンガーの断面は、私が毛を切り損ねたときの、中心まではスパッと、その後斜めにグニャッとなってしまった状態と全く同じ。おまけに、折れたハンガーの中心部分には、まるで毛の随質のような白い点があった。「もう一回、やり直し。」

はああ…

でも、厭々やってるんじゃない。自分が知らなかったことが少しずつ着実に分かっていく。すごく面白くて、嬉しくて、ついつい別の作業をしている人にも話したくなる。邪魔になっただけ、ごめんなさい。

だって、ほら、このユキウサギの毛の断面、坂本さんが着てる T シャツのイヌが啜えてる骨にそっくりなんだよ。

P

